

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年5月22日(2008.5.22)

【公表番号】特表2003-518052(P2003-518052A)

【公表日】平成15年6月3日(2003.6.3)

【出願番号】特願2001-546622(P2001-546622)

【国際特許分類】

| | | |
|--------|-------|-----------|
| C 07 C | 41/24 | (2006.01) |
| C 07 C | 41/05 | (2006.01) |
| C 07 C | 41/22 | (2006.01) |
| C 07 C | 43/17 | (2006.01) |
| C 08 F | 16/24 | (2006.01) |

【F I】

| | |
|--------|-------|
| C 07 C | 41/24 |
| C 07 C | 41/05 |
| C 07 C | 41/22 |
| C 07 C | 43/17 |
| C 08 F | 16/24 |

【手続補正書】

【提出日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

好ましくは、本発明によって製造される全フッ素化されたエーテルは、式、 $C F_2 = C F C F_2 - O - R_f$ を有する全フッ素化されたアリルエーテルである。全フッ素化されたアリルエーテルは、直鎖または分枝鎖のどちらでも良い。好ましくは全フッ素化されたアリルエーテルは直鎖である。ここでの用法では、全フッ素化と言う用語は、炭素に結合する水素原子が全てフッ素で置換され、あらゆる不飽和炭素-炭素結合がフッ素で飽和していることを意味する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

発明の別の態様では、

(a) 全フッ素化されたオレフィン、ビニル化合物またはアリル化合物をアリルアルコールと反応させて、水素含有前駆物質を与えるステップと、

(b) 水素含有前駆物質を塩素化して塩素化された中間体を与えるステップと、

(c) 塩素化された中間体をフッ素化してステップ(b)の全フッ素化された生成物を与えるステップと、

(d) ステップ(c)の生成物を脱塩素して全フッ素化されたアリルエーテルを与えるステップと、を含む方法によって、全フッ素化されたアリルエーテルが製造される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 2 】

詳細な説明

本発明によって調製される全フッ素化されたアリルエーテルは、フルオロエラストマー、特に低温で使用されるものの製造において有用である。このようなエラストマーについては公知である。例えば米国特許番号第5,891,965号(WormおよびGuerrera)を参照されたい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 4 】

部分的にフッ素化されたアリルエーテルの二重結合への塩素の付加は、概してフレオン113または低沸点全フッ素化化合物などの溶剤中で実施される。